

## 恐竜の島・御所浦島できばる夫婦船 ～ツーリズムを活かした女性部の活性化～

御所浦町漁業協同組合  
女性部 長塚巳樹

### 1. 地域の概要



私達が住む熊本県天草市御所浦町は、県の南西部に位置し、横浦島、牧島、御所浦島という3つの島を中心に大小18の島々からなる、離島の町です。島の人口は3,900名余り。そのうち水産業に携わるのは460名程で、水産業は島の基幹産業となっています。

また、白亜紀時代の恐竜の歯や、足跡が続々と発見される「恐竜の島」としても有名です。島を丸ごと化石の博物館に見立てた、野外見学地なども整備されています。その中心である御所浦白亜紀資料館には、恐竜やアンモナイトなどの化石が多数展示してあり、毎

年、多くの見学者があります。

### 2. 漁業の概要

御所浦島では、養殖業が大変盛んで、マダイやトラフグの県内有数の生産地となっています。漁船漁業では、「まき網」をはじめ、「吾智網」「刺網」などが盛んに行われていて、平成18年の御所浦町全体の漁獲量は約2,000トン。漁獲される主な魚はタイにヒラメ、アジ、エビ類などです。

私達が所属する御所浦町漁業協同組合は正組合員数97名、うち女性の正組合員は28名です。組合の理事の数は9名で私も女性理事として参加していますが、熊本県内では、ただ1人の女性理事だそうです。

### 3. 研究グループの組織及び運営

私達の女性部は平成10年に結成されました。現在の部員数は8人で、役員は部長、副部长、会計が各1名います。30歳から58歳の会員で構成され、活動の中心となるのは40歳代の会員です。今、私が42歳ですので、ちょうど、私ぐらいのメンバーが中心となります。組織されてからの期間が短く、会員の年齢構成も比較的若いのが特徴です。

ただ、各部員の漁業種類が多岐にわたることから活動できる季節や時間が制限されるのが難点です。ですから活動のモットーは「無理せず！楽しく！着実に！女性部活動を続けていこう」です。

#### 4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

##### (1) これまでの女性部活動

これまでに、女性部では、御所浦町産業祭「よかとこ祭」への出店、漁協主催の朝市への出店、市物産館「しおさい館」への加工品の出品などの活動を行ってきました。



しかしながら、その場だけの単発的な活動に終わってしまい、女性部の活動が、それ以上活発になることはありませんでした。このような停滞ムードのなかで、「浜」の活力を失わないためにも、私達、女性部が持ち前の「元気」で新しい活動を行い、その停滞ムードを吹き飛ばしてやろうと考えていましたが、何をして良いかわからず、最初の取り掛かりとして、何か活動ができなにか考えていました。

##### (2) 夫婦船

私達の組合では、夫婦と一緒に船に乗って一緒に漁をする、いわゆる「夫婦船」が一般的です。私の家ではエビを獲る「流し網」漁業や、ヒラメやタイを獲る「刺網」漁業をやっています。夫が、舟の操船と網上げを行い、私は網入れと、網にかかった魚をとります。1日の漁が終わって、疲れて家に帰った後も、一緒に家事を協力しあって行います。料理は私が主につくりませんが、配膳や後片付けは夫が手伝ってくれますし、掃除も少しは手伝ってくれています。

海でも陸でも、夫婦2人が、お互いに助け合い、お互いの個性と能力を十分に発揮する、いわゆる「男女共同参画」を実践しています。今からお話しする、ツーリズムも夫の賛成と協力があったからこそ、実現することができました。

##### (3) 新しい活動の模索

そのような中で、5年前に何気なく参加した「御所浦アイランドツーリズム推進協議会（以下、「推進協議会」）」の説明会が、私にとっての大きな転機となりました。

この推進協議会は、天草市に合併する前の御所浦町役場が中心となり、「恐竜の化石」や「漁業」を活かしたツーリズムを行うことで、地域を活性化させることを目的につくられました。主なメニューは、化石を発掘する「化石発掘体験」、1億年前の白亜紀の地層を見学する「化石探検隊」、伝統漁法“トントコ漁”を体験する「体験漁業」、「民泊」の際に地元の漁師料理と一緒に作って食べる「漁師料理体験」などの豊富な体験型イベントでいっぱいです。

私は、ツーリズムの説明会で話を聞いた後、「これだ」と思いました。心の中ではやる気満々、でも表向きは迷ってる振りをして夫に相談してみると、答えは「やってみようよ」との快い返事。「『体験漁業』は子供達の安全に気を配ったりで大変だけど、『民泊』と『漁師料理体験』なら、いつもの生活の延長なので出来るかもしれないね」と二人で話しながら、やるこ



とを決めました。新たな夫婦船の出航でした。

## 5. 実践活動の状況及び成果

ツーリズムに参加して、早くも5年間が経ちました。私達の家では、春と秋の修学旅行シーズンに、1年間で40名程の中学生の子供達を受け入れています。子供達は、昼は体験漁業などのメニューを楽しみ、その後、私達の家で「漁師料理」の体験と、「民泊」を経験します。

### (1) 漁師料理

漁師料理の体験では、これまで包丁を持ったこともないような子供達もいて、魚の三枚おろしを教えるのも、一苦勞です。夫が豪快に大きな魚のさばき方を見せ、私が小さな魚のこしらえや、その他の「魚料理」全体を教えます。「ここを手でしっかり押さえて、魚の背骨にそわせるように包丁を動かしてごらん」

「あれれ、上手く包丁が動かないみたいだね、難しいかな」「あらら、すいぶんと骨に身が付いちゃったね」など色んな、やり取りを交わします。1時間もすると、見た目はきれいではありませんが、美味しい漁師料理ができあがります。晩ご飯は、私達の家族も一緒になり、みんなで食べます。子供達は、自分達で作ったということもあり、口々に「美味しい」といって全部食べてしまいます。



### (2) 民泊

他人様の子供達を預かるのだから責任は重大です。最初は「夜更かししていないかな」「慣れない布団で眠れるかな」と心配していましたが、いらぬ心配でした。盛りだくさんの体験で疲れ切った子供達は、布団に入ると直ぐに寝てしまっていました。

ところが家庭内では問題発生。私達の家には、高校生と中学生になる息子が2人います。ツーリズムに参加した当初は中学生と小学生でした。息子達には民泊のことを全く相談していなかったのです。受け入れて直ぐは「母ちゃんは自分達に何の相談もしないで勝手だ」と怒っていたのです。そんな息子達のことは全く無視して、受け入れを続けていると、息子達に心境の変化が。ご飯も一緒に食べるし、ご飯が終わった後もみんなと一緒に話をするようになりました。息子達曰く「母ちゃんは、やり出したら止まらないから諦めた」とのことでした。



### (4) 成果

最初こそ、要領がわからず、夫と2人で四苦八苦していたのですが、今では、すっかり慣れてしまいました。元気な子、おとなしい子、男の子、女の子、色々な子供達と出会い知り合うことが出来たのが大きな財産となっています

子供達の受け入れは、私達だけでなく私達の家族にとっても大きな刺激となりました。また、漁業の魅力を子供達から逆に教えてもらうこともあります。体験を終えて帰って行

った子供達から「三枚おろしが出来るようになった」「ヒラメやタイがとっても美味しかった」「これからも美味しい魚を獲ってください」など書いた手紙を受け取ると、本当にやって良かったと思います。

私はツーリズムへ参加することで、地域の活性化に貢献をしているという、大きな「やりがい」と「充実感」を得ることができました。またツーリズムを通じて、「漁師」という仕事を、都会の子供達にも認めてもらったことで、「漁師」という仕事を「誇り」を持って取り組めるようになりました。

更には、協議会からは、受け入れる子供1人当たり5,000円の宿泊料が出ますので、ちょっとした家計の足しにもなっています。

## 6. 波及効果

この御所浦町には、これまでに約5,000人にのぼる子供達が修学旅行に来ているそうです。これは、推進協議会の主力メニューである「体験漁業」や「漁師料理体験」に大きな魅力があるからだと思います。

そこで、自分のツーリズムの体験もふまえて、新しい女性部活動としての「漁師料理体験」ができないか考えるようになりました。漁師料理体験は「天候に左右されない」「新鮮で美味しい魚が、安く、簡単に手に入る」等のメリットがあることから、あとは「日頃の料理の腕前を披露しながら教えればよい」ので、これまでとは違った特別なことをする必要がないので、取り掛かりが容易です。

現在、推進協議会の事務局と、女性部が主体となった新メニュー「漁師料理体験（女性部版）」を加えることができないか相談中です。体験の会場は、組合近くの漁村センターを活用できますし、部員の手が空く時期であれば2名程が参加することで10～20名くらいの子供達には対応できそうです。調理メニューは思案中ですが、家ではちょっと手間がかかるようなすり身料理等を考えています。

人気ができるようになれば部員の新たな収入源としても期待できそうです。そうすれば、このツーリズムが、「女性部」を活性化させてくれると思います。

## 7. 今後の計画と問題点

最近では「漁師料理体験」のことを女性部内でよく話すようになったので、女性部にも活気が出てきました。早期実現を検討中ですが、部員が8名と少ない事から、申込みがあっても対応できない場合がでてくるかもしれません。その時は、今は引退されている女性部OGさんにも応援をしていただきたいと考えています。高齢になり日頃の女性部活動への参加がきつくなって辞められた方々も、このような活動であれば協力していただけたらと思います。

今後も、ツーリズムをとおして女性部を盛り上げていながら、どんどん御所浦島の魅力を全国に発信していきたいと考えています。